

ニューサウスウェールズ州の学校制度について

シドニー事務所

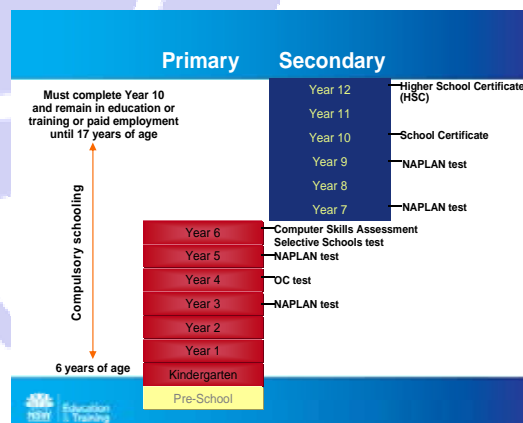
1 月下旬、ニューサウスウェールズ州（以下「NSW 州」）教育訓練省国際教育部に勤務され、多文化・多言語教育を含む海外からの教育に関する調査・交流事業に携わっている、ジェニー・シップ (Jenni Shipp) さんに、NSW 州の学校制度についての講演を開催していただきました。ジェニーさんは、シドニー市・名古屋市姉妹都市委員会の委員長も務め、両都市間の交流のために尽力されておられます。今回、シドニー事務所からは、NSW 州の学校制度について、お届けします。

学校教育の所管は州政府

豪州は、連邦国家です。教育に関することは、州の権限であり、連邦政府や地方自治体にはありません。NSW 州教育訓練省とその下部組織である地方事務所で、NSW 州全体の教育行政を担っています。州政府が、教育制度を法定し、教職員の任命・研修・給与負担、プライマリースクール、セカンダリースクールの設置を行っています。地方事務所は、校長、教員への助言・指導を行います。NSW 州教育訓練大臣は、「教育行政を行う NSW Department of Education and Training」と「職業訓練を行う NSW TAFE Commission」と「教育カリキュラムの策定、私立学校の登録・認定及び大学入試業務を行う Board of studies」を所管しています。

初等中等教育の概要

NSW 州の教育制度は、就学前教育（日本の幼稚園・保育園に相当）、初等教育（Year1 から Year6）、中等教育（Year7 から Year12）、高等教育の 4 段階に分かれています。学校年度は、1 月から 12 月、一学級あたりの児童生徒数については、Kindergarten ; 20 人、Year1 ; 22 人、Year2 ; 24 人、Year3 ~ Year10 ; 30 人、Year11,12 : 24 人です。また、NSW 州全体の公立学校の施設数は、約 2,200 箇所、児童生徒数は、約 74 万人です。教員数は、5.5 万人以上に上り、これにより、



NSW 州教育訓練省は、豪州最大の雇用者となっています。私立学校の施設数は、約 910 箇所、児童生徒数は、約 38 万人、教員数は、3.2 万人以上となっています。

() NSW 州の他に 2 州も同様であるが、クイーンズランド州など 3 州では、初等教育が Year1-Year 7、中等教育が Year8-Year12 となっている。

義務教育期間等

NSW 州では、3 歳、4 歳から就学前教育を受けることが奨励されており、週 2、3 日程度プレスクールに通います。5 歳からは、義務ではありませんが、プライマリースクールに併設されたキンダーガーデン（幼稚園）に就園します。義務教育期間は、2009 年までは、Year1（6 歳）から Year10（15 歳）の 10 年間でしたが、2010 年 1 月から制度が変更となり、Year11（16 歳）、Year12（17 歳）は、学校教育等を受ける、公認の教育・訓練機関に就学、週平均

25 時間の定職、上記の組み合わせ、のいずれかが義務づけられました。この制度変更の目的は、将来の就労機会や所得の拡大をもたらすために実施されたそうです。また、Year7 (12 歳) からの公立のセカンダリースクール通学にあたっては、NSW 州の場合、無試験の学区制のセカンダリースクールか、入試試験のある選抜制のセカンダリースクールを選択することができます。大学入試については、Year11 から、HSC(Higher School Certificate)の科目を選択・受講し、Year12 の学業成績及び共通テストを受験して、そこから得られるスコアに応じた大学に入学することになります。



【ジェニー・シップさん】

学力テスト

Year3,5,7,9 の学年時に、豪州の全児童生徒を対象とした NAPLAN Test という統一試験が実施されます。これは、2008 年から、全児童生徒の読み書き能力と計算能力を評価するための学力を図るために実施されているものです。NSW 州では、試験結果について、先生が、各児童生徒の長所や短所を把握し、今後の各児童生徒の学力向上のために、役立てているそうです。



【ジェニーさんの講演を熱心に聞く職員】

Knowledge (知識) を計っている試験ではなく、Skills (技能) を計っている試験であり、各学校や個人のランクづけのためのものではないとのことでしたが、ACARC (Australian Curriculum, Assessment and Reporting Authority) という連邦政府の教育関係組織が、学校間の成績比較ができる Web サイトを開設するとともに、豪州全体のカリキュラムの標準化も推進しており、連邦政府は、教育への関与を拡大する傾向にあるようです。

お役立ち情報サイトをご紹介します。興味がある方はアクセスしてみてください。

- ・ NSW 州の教育サイトの日本語版があります。詳細はこちら

<http://www.schools.nsw.edu.au/languagesupport/language/japanese.php>

- ・ 州が学校を設置しているため、姉妹都市交流の延長として姉妹校交流を行うことは、容易ではありませんが、NSW 州の学校生活体験・生徒間の交流プログラムは、こちら

http://www.detinternational.nsw.edu.au/schools/study_options/study_tours/study_tours.htm

最後に、著者からの補足ですが、「図表で見る教育 (OECD インディケータ 2010 年版 (2007 年支出))」によれば、教育機関への公財政支出の対 GDP 比 (全教育段階) では、豪州 3.8%、日本が 3.3% と、豪州の方が、0.5 ポイント公財政支出が多いものの、2009 年実施の「PISA (OECD 生徒の学習到達度調査)」では、熟考・評価を除き、日本の方が、豪州よりも平均得点が高いようです。

参考ですが、現地の学校に入学させている当事務所の職員の経験を書きおくと、教育現場では、児童の自主性を重視した教育がなされているようであり、親も学校に全て任せきりにしないそうで、親同士のネットワークも活発だそうです。そういったこともあり、児童が、学校で学びやすい環境が整っていることに加えて、親も学校を中心とした地域コミュニティから学ぶことが多いとのことでした。日本でも、引き続き、子ども親も学校から色々と学べるような学校の環境整備していくことが重要ではないかと感じました。

(田頭所長補佐 総務省派遣)